

山梨大学工学部 正員 ○花岡利幸

正員 青柳総明

1. まえがき

交通計画法はP・T調査結果に基づく四段階推定法として完成されたといわれている。しかし、限られた資料しか持たない地方都市ではこの計画法は初めからなじまない。発生した交通問題に個別的に対応し、全体に目の行きとどく交通対策のためには小まわりのきく交通計画法が必要である。本論では春日井市の総合交通計画立案に用いた計画論を報告する。図-1はそのプロセスを示すものである。このプロセスは計画課題の設定過程と構想・基本計画の立案過程に二分される。

2. 計画課題の設定

(1)交通形態 当該市民の交通実態を観察して、市民の交通を6つの交通形態(①市外向通勤・通学者、②市内向通勤・通学者、③近隣通学者、④近隣交通潜在者、⑤中遠距離交通潜在者(都心向け)、⑥中遠距離交通潜在者(諸施設向け))に割付けた。割付けられた交通者は、どのような場所で、どのような交通施設を使って、どういう交通機能を成就するかが明確にされる。

(2)市民諸活動の交通形態への帰属化と交通現象の発見 いろいろな場面で具体的に起っている交通現象を発見し、それを交通計画課題にまとめてゆくために、市民の諸活動を交通形態に帰属させ、考慮中の活動が具体的にどの交通空間に対応するかの翻訳を試みた。市民の諸活動は、上位計画の総合計画で扱っている市民の都市生活の中から交通関連項目として取り上げた。各項目の交通空間対応は、その具体性の程度によって異なるが、対応関係のあるものだけを一覧すれば、交通形態ごとにどこで、どのような交通現象が起っているかを知る。

(3)個別的な交通課題の設定 交通形態ごとに交通現象を眺めて、その中を貫く根本的な交通問題を見つければ、これが交通課題と名付けるものである。そのために、市民の意見を援用した。

(4)全体的な交通課題の成立 (2)で対応関係が明確でないものの項目について処理する。これら項目は(3)の個別課題に共通した交通空間を形成する事柄で、別の分類による交通形態に対応するような空間概念を提供するものや、交通問題ではあっても物的に論じられない事柄などである。これらは、個別的な交通課題を縦に切る形の計画課題となって現われるものとして全体的な交通課題とした。

3. 計画立案のプロセス

(1)計画の理念と方向 上位計画である総合計画を受けて、それを支援するものとして設定する。

(2)交通計画課題 計画立案とは2で示した課題についての対策を明示することである。各々の課題は、どこ何の問題であるかを明確にしている。しかし、この段階での場所と対象は漠然とした抽象的なものである。課題ごとに考慮しなければならない場所を明示し、具体的な検討に入る。

(3)仮定としての戦略 計画の理念や方向性を前提にしながら、或る計画課題について具体的な解決策を想定してみる。計画課題設定時に浮んだ或る戦略、評価基準を用意した類似例の適用、計画者のイメージ等。

(4)実態の明確化 漠然とした計画課題と具体化した戦略が整った段階で、対象とする場所と施設についての資料収集がなされる。施設現況把握と利用実態把握である。既存資料がなければ必要に応じて調査を実施する。収集した資料は分析・評価に供するように整理された。

(5)分析と評価 現状分析として扱う部分に相当する。現状と問題点および課題が実証的に確認される。また仮定した戦略でよいかどうかの方向性の確認と問題解決法の発見が行なわれた。

(6)計画 個別課題および全体的課題について、各々の課題に対して網羅的に解決策を示して計画とした。

4. あとがき

(1)計画のプロセスと評価システム 一般に計画とは行動指針を事前に示すこととされている。計画は①計画課題の設定、②構想計画、③基本計画、④実施計画、⑤事業計画、⑥実施・完成を段階的に経過することによって実行に移される。これを計画のプロセスと呼ぶ。一般に或る行動指針が決定される前段には、そこに至るまでの問題の認識、評価、判断の一セットの過程が挿入される。この一セットを評価システムと呼ぶと、計画のプロセスの各段階で評価システムに従って評価がなされて前進する。これを図-2に示す。

(2)本論の位置づけ 本論は総合交通としての計画課題の設定と構想または基本計画の策定について扱ったものである。これを図-2に対応させると、①および②または③の段階に相当する。そして①の前段の評価システムが図-1の左半分になり、②または③の評価システムが同図の右半分になったものである。今回の作業によって明らかにしようとした交通計画法は地域の交通現象を、地域が自らのものとして捉え、自らの問題として交通を解決すべきものとしてのアプローチを試みたものである。しかし、各所において主観的判断に依らざるを得ない部分も多いことも否めない事実であった。

図-1 交通計画手法のフローチャート

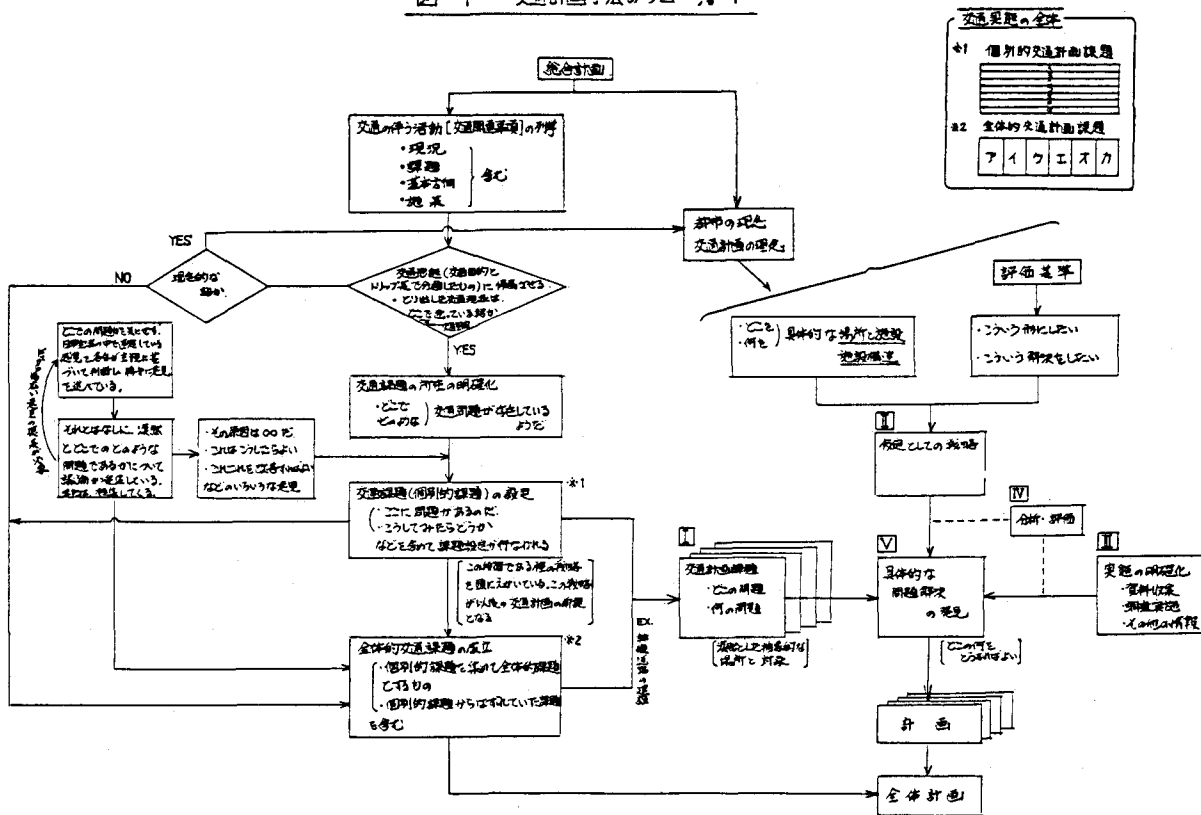


図-2 計画のプロセス

